（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4790100269		
法人名	㈲コンフォート		
事業所名	グループホーム　なけ～ま原		
所在地	沖縄県那覇市仲井真238-3		
自己評価作成日	平成25年9月18日	評価結果市町村受理日	平成25年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100269-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10－25　1F
訪問調査日	平成25年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

昨年同様，法人理念の実現のためホーム独自のモットーを掲げ，何事にも職員全体で取り組むようにしています。3ヶ月に1度のチーム評価も継続し，入居者主体のケアを実践しています。御家族との信頼関係も築けており，少しずつですが理念に近付けているのではないかと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は入居者を中心に家族、地域、職員が「心をひとつに」をモットーに掲げ、チームケアーに取組み、職員全員で入居者の情報を共有している。基本的（食事、排せつ、移動等）なケアについても、気になる内容や状態、どんな対応が良いのか等を話合い、入居者一人ひとりの一日の過ごし方や援助内容を職員間で共有し実践に活かしている。管理者が看護師で入居者の健康管理等医療面にも配慮し、入居者が家族と一緒の帰省を継続できるよう支援している。また、食事を3食事業所で調理し提供したり、居室への仏壇の持込みも増え、入居者の生活の糧に繋げている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕　確定日：平成25年　12月1日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に近付けるよう，当ﾎｰﾑでは“心をひとつに”というﾓｯﾄｰを設定。ﾌﾛｱの壁に掲示し，職員全体で共有できるようにしている。ｹｱや業務は入居者を主体に考えるよう（又，職員の過度な負担にならないよう）全体で考え実行できるように心掛けている。	管理者は3年前、目標を持っていこうとの思いで職員間で話し合い「なけ～ま原モットー」を事業所の理念として掲げている。家族等へ、利用契約時や家族会等で説明し、周知を図っている。職員は申し送りやミーティング等で理念を振り返り、チームケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やﾄﾞﾗｲﾌﾞを通し，挨拶や会話を交わし，日常的な交流を行っている。又，地域若年ｻﾎﾟｰﾄｽﾃｰｼｮﾝや保育園との交流も継続しており，互いの行事への参加もある。	地域の保育園の祭り等の参加や、近隣小学校へは事業所紹介の挨拶で訪問している。又、毎週月曜日は地域福祉事業所から清掃ボランティアの訪問があり、入居者との交流の機会ともなっている。「地域との関わりを増やす」を目標で、今後も啓蒙活動等に取り組みたいとしている。	入居者が地域で暮らし続けられるよう、地域への啓蒙活動の更なる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつではあるが地域交流の場を広げていくことを検討中であり，左記様の取り組みも視野に入れ計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を通し，ﾎｰﾑの状況を報告。会議は入居者全員や職員も参加。都合のつく場合は，保育園やｻﾎﾟｰﾄｽﾃｰｼｮﾝの職員，御家族にも参加していただいている。会議中に得た情報・助言は，当ﾎｰﾑに適した方法でｹｱや業務に取り入れている。	運営推進会議は、年6回定期的に開催し、入居者や行政担当者は毎回参加しているが、家族や地域関係者の協力が得られていない。運営や活動等の報告、意見交換等の議事録は整備している。	運営推進会議の意義を踏まえ、会議が事業所運営に生かせるよう委員の充実とうの取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や介護支援専門員が市役所に出向く際に互いに情報交換を行っている。又，那覇市のｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ連絡会にも参加しており，協力体制を築けるよう取り組んでいる。	市担当者とは運営推進会議やグループホーム連絡会で情報交換している。生活保護対象の入居者の面談に半年に1回訪れている。手続きや介護計画の確認を仰いだり、実践者研修の案内があるなど協同の関係に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例検討や勉強会は適宜開催。職員へ再確認・意識付けを行っている。危険防止の為2階扉は施錠（御家族・行政への確認済）。 やむを得ず行う際は，御家族から同意を得（同意書あり），職員間でもしっかりと話し合い，最低限での対応を心掛けている。	職員は拘束しないケアについて勉強会やミーティングで話合い理解に繋げている。言葉での行動抑制「座ってて」「待って」は事業所では禁句としている。家族にはリスクについて担当者会議で説明している。不穏時の入居者の理由を探ってみることを意識して対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事例検討や勉強会を通し，日頃のｹｱを振り返り見直し，虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当する入居者がいない為行っていないが，職員から勉強会希望の声が挙がっている為計画中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時のｻｰﾋﾞｽ会議時に管理者や介護支援専門員を中心に行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者と職員は1対1の担当制を取り入れており，職員1人ひとりが入居者や御家族と信頼関係を築けるようにしている。得た情報・意見は職員間で共有し，業務内容を変えて対応する等して運営に反映させている。	入居者の意見は日々の関わりの中で直接聞き、家族からは面会時や担当者会議で意見や要望を聞く機会としている。また、９月には初めて家族会を開催し情報交換をしている。「ドライブしたい」「ぬり絵がしたい」等を活動に反映している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議や個人面談を通し，職員の意見や提案を聴くことができるようにしている。会議や申し送り以外でのもｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝからも職員の想いをくみ取れるようにし，働きやすい環境作りに努めている。	職員の意見は月１回のミーティングや面談で聞く機会としている。職員の休憩時間の確保やクーラーの風よけの工夫、手指消毒のアルコールボトルを増やす等の意見を反映している。職員の意見として一番多いのは、「職員を増やしてほしい」の声が多く管理者は法人代表に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は，管理者を含めた現場の意見や姿勢を受け止めてくれる。給与面に適切に対応してくれたり，より良い職場環境作りの為に多くのｱﾄﾞﾊﾞｲｽをしてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・講習会等の参加は勧めてくれるが，人員不足の為実践できない現状にある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が其々独自で交流を図っており，互いに相談し合える関係を築いている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用中ｻｰﾋﾞｽの職員や御本人と話をする時間を設け，それらの情報を基に職員全体で話し合いをしながら本人主体のﾌﾟﾗﾝを立案し，安心して暮らせるよう関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に御家族と話をする機会をもっている。その際御本人は同席せず，御家族の本音を聴けるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する際に，御本人始め御家族の為にどのような支援ができるのか話し合いをもっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主に家事の共同を行っている。入居者個人個人のﾚﾍﾞﾙに合ったものを行ってもらい，皆で協力し合えるよう努めている。できることは御本人に，できないこと・できなくなってしまったことは過剰介護にならないよう注意しながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出・外泊は都度応じている。その際，御家族の想いも伺いながら情報交換・共有・調整を行っている。又，消耗品購入依頼をこまめに行うことで面会の機会を増やしてもらえるよう工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話等は都度対応。又，日常の会話や葉書・郵便等が届いた際にも会話での支援ができるよう心掛けている。外出・外泊の支援も行っており，馴染みの関係継続にも努めている。	日々の会話、家族や親戚、友人の面会時に入居者の生活環境や習慣、職歴等の情報収集している。入居者の知人が訪ねてきたり、遠くにいる親族からの便り等に、電話連絡や写真を送る等、途切れないようにしている。家族の協力で家族旅行も支援している	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や性格も考慮し席を配置。その中に職員が入り，歌を唄ったりｹﾞｰﾑや家事を行っている。全体ﾚｸの時間を設け，皆で楽しめるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援やﾌｫﾛｰをしている方はいないが，退居後の経過の確認は都度行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人の行動や会話の内容から真意をくみ取るよう努めている。それらの情報を基に職員間で話し合いをもち，入居者本人の想いや意向について把握できるよう心掛けている。	入居者の思いや意向は家族や友人から情報を得たり、本人からは普段の会話や表情、ゼスチャー等を駆使して問いかけ把握に繋げている。また、職員は日常の入居者の思いや声を記録し、それらの情報を基にチーム評価で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や日頃の会話からの情報，又御家族との会話の中から得られた情報を職員間で把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の申し送りを中心に，情報提供・共有を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度，ﾁｰﾑ評価表を用いて全職員から情報を得ている。入居者本人や御家族の意向も踏まえ担当職員と話し合いをもち，介護計画立案に取り組んでいる。又，状態変化の都度，計画の見直しを行っている。	3か月毎のチーム評価は全職員の情報を得て実施し、計画は、入居者、家族の意向や担当職員の意見等踏まえて作成している。状態変化時に合わせた見直しも行われている。担当者会議は、入居者や家族が参加し開催している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に介護計画のｻｰﾋﾞｽ内容を反映させ，ｹｱの提供・記録を行っている。ﾁｰﾑ評価での情報源にもなっており，介護計画の継続・見直しに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型にはまらないように心掛け，また状況の変化があれば全員で話し合い，入居者本人に合ったﾌﾟﾗﾝを作成しｹｱを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の病院の把握，提携病院との連携，訪問ﾍｱｶｯﾄやその他資源を活用しながら健康に楽しく過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人の状況や御家族の意向を確認し，往診やかかりつけ医への受診を決定。往診以外の受診は御家族対応としているが，必要に応じ同行支援をしている。受診時は情報提供をしっかり行い，結果は電話や文書で共有するようにしている。	協力医の訪問診療（3人）を除く他の入居者は家族対応で定期に受診している。入居者の状態に変化がある場合にはファックスや情報提供書を活用し、受診後は主治医等から書面での報告を受ける等連携を図っている。入居者個別の医療記録で受診日や薬等を管理している。専門医の受診時は職員が同行したり電話で対応の相談もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いたことはその都度報告し，指示を仰ぎ特変時は24時間体制で連携が取れるようにしている。又，主治医との連携も密に行い，適切な対応ができるよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は必ず付き添い，入院先へ直接情報を提供している。入院中は面会を多くする等して病院側と連絡を取り合い，入居者本人の状態の把握に努め，早期退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けてのﾏﾆｭｱﾙを作成し，早い段階からの話し合いを設けている。「痰吸引等の医療行為を要する場合以外は対応可能」であることを伝え，看護職を中心に御家族や提携医と連携している。又，御家族の想いを踏まえた内容を職員間で話し合う機会をもち，対応や心構えを共有している。	「重度化および看取り介護に関する指針」を作成し、利用開始時に説明し同意を得ている。入居者の状態の変化に応じ、方向性について事前に主治医や家族、職員で話合う機会をもっている。協力医療機関との連携や24時間オンコール体制、職員間の看取りケアの研修等管理者を中心に取組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や特変時は即刻管理者（看護職）に連絡し指示を仰ぐよう徹底している。応急手当や初期対応に関してはﾏﾆｭｱﾙを作成中である。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員参加で消防職員立会いの下避難訓練を実施。非常時は3階の大家さんと協力体制が取れるよう調整中。昼夜を想定した訓練実施月を職員全体で決め，取り組み始めたところである。	災害対策として2月に消防署による消防設備点検、防災対象物立入検査を受け、スプリンクラーの設置と消防訓練の実施の意見を受け、7月に初めての消防署立会いで総合訓練を実施している。今回は入居者と全職員が参加したが、地域等への協力依頼等の取組みや、災害に備えた備蓄等の整備も課題となっている。	災害訓練は年2回以上の実施となっているので、今後予定している自主訓練の実施と地域との協力体制への取組み等に期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に「入居者のお手伝いをさせていただいている」ということを忘れないように心掛けている。対応や言葉遣いで気になった職員へは都度注意を促し，全体会議でも取り上げ振り返り共有するようにしている。	入居者の生活リズムを尊重し、起床時間等への配慮や、日中の過ごし方、睡眠時の居室内の明るさ調整等個別に対応している。また、入浴用必需品は全て個別の所持品となっている。管理者は声掛け等が入居者と慣れあいにならないよう心がけることを職員に促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間や業務に縛られず，入居者其々の自己決定や希望に沿えるような工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員不足の為，希望に沿ったｹｱを支援できないこともあるが，その時々の状況・状態に合わせ，可能な限りの対応ができるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ﾓｰﾆﾝｸﾞｹｱは必須。整髪や化粧等好みに合わせられるよう支援している。又，寒暖の区別なく着込んでしまう方には声掛けを行い，季節に合ったおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえから片付けまで入居者其々のﾚﾍﾞﾙに応じて，職員と一緒に行えるよう取り組んでいる。昼食は職員も一緒に同じ食事を摂れるよう調整し，皆で食事を楽しめるよう心掛けている。	食事は全体で大まかに献立を決め、職員がその日の食材で調理している。入居者は食材の買い物や野菜のつくろい、食後の下膳等個々に参加している。入居者の状態に合わせた形態や自助具の使用、摂取量が少ない入居者は栄養剤も活用している。職員も一緒に食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や生活習慣，ﾚﾍﾞﾙを把握し，それらに応じた食事・水分を提供している。看護職や主治医とも相談し合い，体調に影響のないよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ｹｱはっ徹底しており，自力で磨ける方には磨き残しがないかの確認を行う等入居者其々の状態に合わせたｹｱを心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ﾁｪｯｸ表を用いてﾊﾟﾀｰﾝを把握し，入居者ぞれぞれに合った時間帯でﾄｲﾚ誘導や声掛けを行っている。又，其々のﾚﾍﾞﾙや時間帯に応じて下着を使い分け失禁予防を行いながら，日中はできるだけﾄｲﾚで排泄できるよう支援している。	入居者の4人は自立で、入居者の仕草や排泄チェック表を判断材料に、トイレへの誘導等を支援している。車イスの使用は移動のみとし、イスからの立上りで下肢筋力を維持し、日中は綿パンツでトイレでの排泄に繋げている。居室内で過ごす時のみポータブルを使用する入居者には、その排泄方法を職員間で統一して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳の提供や水分補給，便通に効く食材の使用等で便秘予防に取り組んでいる。それでも効果のない方には屯用での内服薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の午後を入浴時間として設定。その中で状態や希望に応じ，入居者本人と時間帯を調整している。入浴日以外の希望にも柔軟に対応できるよう心掛けている。	入浴の判断を管理者（看護師）が下し、バイタル以外に入居者の声かけへの反応や顔色等にも注視している。入浴時は肌の状態により垢すり禁止やハンドタオル使用等を職員間で共有している。見守りや半介助等、入居者ができることを優先し、同性介助が厳しい場合も事前に断り対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望に合わせ昼夜問わず調整し支援している。又，寝具類や室内灯の消灯の有無も生活習慣や希望に沿って調整し，環境整備の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をいつでもすぐに確認できるよう設置している。支援方法や症状の変化については看護職を中心に確認し合うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体ﾚｸとして運動やﾄﾞﾗｲﾌﾞ等を取り入れ，気分転換ができるよう心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時は可能な限り散歩に出られるよう努めている。又，ﾄﾞﾗｲﾌﾞで遠出したりと気分転換が図れるようにしている。御家族の協力を得て，日常的なﾄﾞﾗｲﾌﾞや盆・正月の帰省等の個別支援も行っている。	入居者は事業所周辺の散歩に自由に行き来し、職員はその都度声をかけ同行している。入居者と職員が話し合い決めた場所へ、ほぼ毎日ドライブをしている。また、初詣や花見等、季節の行事等にも出かけている。入居者は個別に衣類や消耗品等の買い物も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	『盗られ妄想』が出現することが多々あった為，基本的に入居者本人がお金を所持することはなし。個別的な出費がある方に関しては，管理者にて預かり，対応可能時に買い物に行けるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者本人からの電話で御家族へ負担をかけてしまうことがあった為，電話を自由に掛けられる体制は取っていないが，御家族や御親戚等親しい方からの電話は都度対応している。手紙に関しては書くことは困難な為受け取るのみである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ。室内は各行事の写真や入居者の作品等も掲示している。 採光や換気，温度調節にも注意を払っている。 又，ﾎｰﾑ裏の畑には季節に応じた野菜を育てている。	事業所は1階には2居室と食堂等リビングにトイレや浴室、2階に7居室を配置し日中はほとんど1階で過ごしている。玄関や階段等壁には行事等の入居者の写真を張り出している。共用空間には食卓テーブルの他数脚のイスを置き、テレビや音楽等音も重ならないよう環境に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の相性を考慮し席を配置しているが固定はせず，本陣の希望に沿えるようにしている。又，御家族の協力を得てﾘｸﾗｲﾆﾝｸﾞﾁｪｱを持参していただき，思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階は和室，2階は洋室。居室にはﾀﾝｽ・ﾍﾞｯﾄﾞを備え付けている。2階居室は，本人の状態や好みに黄して畳を敷いたり布団に変える工夫をしている。又，仏壇や馴染みの家具，写真等の持ち込みも可能であり入居者が安心して暮らせるようにしている。	入居者の思い々の居室作りを支援し、仏壇の持込みが2部屋、畳間が2部屋等在宅時の環境に近づける等家族の協力も得て取組んでいる。日中の活動で作成した作品で飾りつけ、入居者の個性的な面を表出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ﾄｲﾚには分かりやすいように張り紙をしている。 ﾌﾛｱ内にはｷｰﾊﾟｰを設置しており，自らでお茶を入れられるようにしている。		